



## さあ、答え合わせをしよう！

### 第19週目 11/23 行ってみよう～秋田県（あきたけん）からの出題

※ココを見てね！▶行ってみよう～秋田県（あきたけん）

1. 秋田県（あきたけん）は、次のうち、どの海に面していますか？

正解: ①日本海（にほんかい）

秋田県（あきたけん）は、青森県（あおもりけん）、岩手県（いわてけん）、山形県（やまがたけん）の3県に隣接（りんせつ）し、日本海（にほんかい）に面しています。正解は、①です。県の人口は約100万人。ブランド米「あきたこまち」をはじめ、全国でも有数（ゆうすう）の米どころとして知られているほか、「うど」「せり」「みょうが」など、野菜の収穫（しゅうかく）も豊富（ほうふ）です。また、文部科学省（もんぶかがくしょう）が毎年行っている「全国学力テスト」によると、小学生部門の学力ランキングは全国第1位（2019年度）！美しい自然と、質（しつ）の良い温泉がたくさんあるので、行ってみたいですね。

2. 仙台湾（せんだいわん）を中心に分布（ぶんぷ）した土器（どき）の作り方は、次のうちどれですか？

正解: ③大木式土器（だいぎしきどき）

①～③の答えは、いずれも縄文土器（じょうもんどき）をその作り方などで区別したものです。秋田県（あきたけん）は、米代川（よねしろがわ）と雄物川（おものがわ）という、2つの川の流域（りゅういき）でたくさんの遺跡（いせき）が見つかっていますが、縄文時代（じょうもんじだい）から、土器（どき）の作り方に異（こと）なる特徴（とくちょう）がみられます。「円筒土器（えんとうどき）」は、米代川（よねしろがわ）の流域で多く見つかっています。正解は、③大木式土器（だいぎしきどき）です。ちなみに、「浮島式土器（うきしましきどき）」は、関東（かんとう）地方東部に広く分布（ぶんぷ）しました。

3. 米ヶ森遺跡から出土した石器は、特殊（とくしゅ）な作り方がなされています。さて、何とよばれている？

正解: ①米ヶ森技法（よねがもりぎほう）

秋田県（あきたけん）の米ヶ森遺跡（よねがもりいせき）からは、東西20m×南北20mの約400m<sup>2</sup>から、台形様（だいけいよう）石器（せっき）・ナイフ形石器（せっき）・彫器（ちょうき）・細石刃（さいせきじん）・石核（せっかく）などが約1,000点出土（しゅつど）しました。中でも「米ヶ森型台形石器（よねがもりがただいけいせき）」は、初めて見られた形であり、材料（ざいりょう）となる石から、魚のうろこのように連続（れんぞく）して切り出された、その特徴的（とくちょうてき）な作り方は、「米ヶ森技法（よねがもりぎほう）」とよばれています。正解は、①ですね。②と③の答えは、ひっかけ回答でした。

4. 逆三角形の胴体（どうたい）から顔が飛び出したようなユニークな土偶（どぐう）は、どこから見つかりましたか？

正解: ③伊勢堂岱遺跡（いせどうたいいせき）

正解は、③伊勢堂岱遺跡（いせどうたいいせき）。「お宝ベスト5」の3つ目で紹介されている土偶（どぐう）は、「いせどうくん」の愛称（あいしょ）でも親（した）しまれています。「伊勢堂岱遺跡（いせどうたいいせき）」は、現在、世界遺産（せかいいいさん）登録（とうろく）をめざす「北海道（ほっかいどう）・北東北（きたとうほく）の縄文遺跡群（じょうもんいせきぐん）」の中で、一番南西に位置（いち）している遺跡（いせき）です。芝生（しばふ）の張られた環状列石（かんじょうれっせき）や広葉樹（こうようじゅ）の森と掘立柱（ほったてばしら）などが復元（ふくげん）された現地は、白神山地（しらがみさんち）が一望（いちぼう）できる景観（けいかん）も、魅力（みりょく）です。

5. 古墳時代（こふんじだい）の初めごろ、墓の副葬品（ふくそうひん）として見つかった、北海道と同じ土器は？

正解: ②続縄文土器（ぞくじょうもんどき）

WEBサイトの中の「調べてみよう～もっと知りたい弥生時代」でも解説（かいせつ）しているように、北海道（ほっかいどう）では、弥生時代（やよいじだい）と古墳時代（こふんじだい）にあたる時代を「続縄文時代（ぞくじょうもんじだい）」といいます。この時代の北海道（ほっかいどう）で作られた土器（どき）は、縄（なわ）や細い粘土（ねんど）ヒモで模様（もよう）が付けられ、注ぎ口がついていたり、開口部（かいこうぶ）に波打ったようなデザインがほどこされているのが特徴（とくちょう）です。こうした形の土器（どき）は、青森県（あおもりけん）、岩手県（いわてけん）、秋田県（あきたけん）にも分布（ぶんぷ）しており、交流（こうりゅう）があったことがわかりますね。そう、正解は②続縄文土器（ぞくじょうもんどき）です。